

地球の 再生と復活を求めて、 5大陸の交流を促進する

池上博国際交流協会

国際交流事業で17年の実績を有する池上博国際交流協会。今年、北京に事務所をオープンし、中国での交流事業を本格化させるという。中国をはじめとする世界5大陸の交流にける思いとは何か。池上博会長に聞く。

池上博国際交流協会を立ち上げた思い・志とは、 どのようなものだったのでしょうか？

池上 日本は先の大戦で中国をはじめアジア諸国に大変なご迷惑をおかけしました。その日本も敗戦という大きな痛手を受けましたが、その後、驚異的な復興をとげ、先進国の仲間入りを果たして豊かな生活を享受しています。しかし、世界に目を転じると、多くの国々がさまざまな問題を抱え、問題解決の糸口を見つけられないでいます。民族紛争や宗教紛争、貧困に起因する自然破壊や環境の悪化など、目を覆う状態が世界各地で繰り返されています。それは人類の危機であると同時に、地球自体の危機でもあります。

私は、世界から紛争をなくし平和を実現するには、多くの国々が交流し、相互理解を深め、お互いを認め合うことが



最も大切であり、問題解決の糸口もそこにあると確信しています。そうした思いと志で、1990年に政治や宗教などの枠組みを超えた、池上博国際交流協会を立ち上げました。

交流会の名称にご自分の名前が ついていますが、それにはどのような思いが 込められているのですか？

池上 国は政治と経済で動いており、それを動かすのは政治家であり経済人です。政治家には国を守る責任があり、その行動にはおのずと多くの制約が課せられています。経済人は企業の代表者であり、利益を確保して株主に奉仕する義務があります。従って政治家や経済人には、その役割つまり建前に従って行動することが求められます。

しかし、彼らにも本音の部分があります。例えば、国が成長するためには、環境問題に多少なりとも目をつぶらなければならないことがあるかも知れません。建前はそうであっても、環境破壊に心を痛めないはずはありません。彼らが立場上できないことでも、誰かにその思いを託すことはできます。私は池上博という個人の立場で、心ある政治家や経済人の思いや志を受け継ぎ、より良い社会の実現に取り組んでいきたいと、交流協会に個人名を付けさせていただきました。

今年、北京に中国事務所を 開設されたそうですね。

池上 日本と中国は一衣帯水の関係にあります。例えば中国で起きている、国土の砂漠化による黄砂被害や、火力発電所から多量に排出される二酸化炭素の問題は、その影響を受ける日本にとっても大きな問題です。当協会では世界各国の主権を尊重しながら、世界5大陸の特性を生かした地球温暖化防止策を提唱しています。日中間でも両国の主権を尊重しあいながら、お互いが協力し合い環境問題に取り組んでいく必要があります。

今回、当協会は北京に中国事務所を開設しました。これを足がかりに、日中の交流ばかりでなく、中国とEU諸国、中国とアジア諸国、中国とアフリカなど、日本人の私が仲介役となって5大陸政策を实践し、よりスケールの大きな国際交流に発展させていきたいと夢を膨らませています。



これまで中国では、どのような活動を されていたのですか？

池上 5年ほど前、日中国交正常化30周年を記念して、両国の友好が末永く続くことを願って、桜の木300本の記念植樹を行いました。私は草や木に根があるように、人の心にも根があると信じています。それが「心根」です。私はこれまで、国を超えた交流、相互理解、平等互恵という心根を、世界の人々の心に移植してきました。桜の記念植樹は、私の心根を中国に根付かせるための第一歩となりました。

私たちは日中の架け橋になるために、中国の方々が望む物を望む形で提供したいと考えています。その一例として、鉱山で働く労働者の職業病ともいえる塵肺の治療活動を行っています。中国政府の統計によると、塵肺患者数は100万人以上とされ、年間4,000人から5,000人が亡くなっています。当交流協会では1人に5時間・1万円を要する塵肺洗浄を、交流活動の一環として行っています。

池上博交流協会の活動は 全世界に広がっているそうですね。

池上 私が胸につけているのは当協会のバッジで、私たちの主張である「5大陸政策」を表現しています。例えば、アジアは肥沃な土地を背景に、豊富な穀物を供給する役割を担う。ヨーロッパも、南北アメリカも、アフリカも、オースト

ラリア大陸も、各大陸の特徴を生かした役割を担うことで、地球温暖化防止や環境の改善が可能になります。

しかし現実には、異常気象の発生による水不足や穀物・野菜の収穫減など、瑞の惑星である地球の存在を揺るがすような事態が、各地で起きつつあります。そうした事態が本格化しないように、私たちは収穫の予測が可能な水耕栽培の促進や、安全な生活用水を確保する技術の開発など、人類の生きる権利を保証する活動を世界各地で展開し、地球の再生と復活をめざしています。

今後の抱負をお聞かせください。

池上 2007年8月現在、国連加盟国は192か国にのぼっています。地球上には異なる言葉、異なる生活習慣、異なる価値観をもった人々が多数暮らしています。その違いこそが国や民族のアイデンティティであり、誇りでもあります。その一方で先進国と発展途上国の間には、大きな格差が存在します。それが紛争の火種ともなりかねません。

他国を知らないことによる誤解や曲解ほど恐ろしいことはありません。お互いが人格と主体性を尊重しあい、心を開いて交流することで、新しい関係が築き上げられるはずで。私たちは今年、日本国際貿易促進協会の一員に迎え入れられました。これからは国貿促の会員としての立場から、新しい交流の道を探っていきたいと思っています。

日本の大学・大学院への 入学や日本企業への 就労を可能にする 日本語学校が誕生！

東京アジア学友会

上海と東京にユニークな日本語学校が誕生した。日本語を教えるだけでなく、日本で生活をもケアするというのだ。向久雄会長と葉維英校長に東京アジア学友会の教育方針を聞く。

どのような意図で

東京アジア学友会を開設したのですか？

向 日中間の《人と物の往来》は、年ごとに増え続けています。しかし、《人流》に関しては、需要と供給のミスマッチが起きています。例えば、中国の学生が日本の大学・大学院への入学をめざして来日したのに、教育カリキュラムが思っていたものとは違っていたとか、日本企業が即戦力となる中国人技術者を募集したのに、来日した技術者の日本語レベルが低く再教育の必要があるなど、お互いが「そんなはずではなかった」というストレスを抱えているのが実情です。そこで不幸なミスマッチを解消し、日本の大学・大学院で学びたい中国の学生を希望通りの大学・大学院へ入学させる、日本企業で働きたい中国人を日本企業が求める人材に育て



上げるを目的に、東京アジア学友会を創設しました。

葉 私は1988年に渡日し、日本語を学び日本の大学・大学院に通って修士号を習得しました。外国語を習得するには、異なる文化や習慣など多くの障壁を乗り越える必要があります。私は自分の経験を生かし、その障壁を可能な限り低くするカリキュラムを開発し、東京アジア学友会で実践しています。当校で学ぶ学生・実習生にとっても、受け入れ側の大学・大学院・企業にとってもハッピーな状態を創り出すこと、それが私の教育理念です。

東京アジア学友会の特徴とはどのようなものですか？

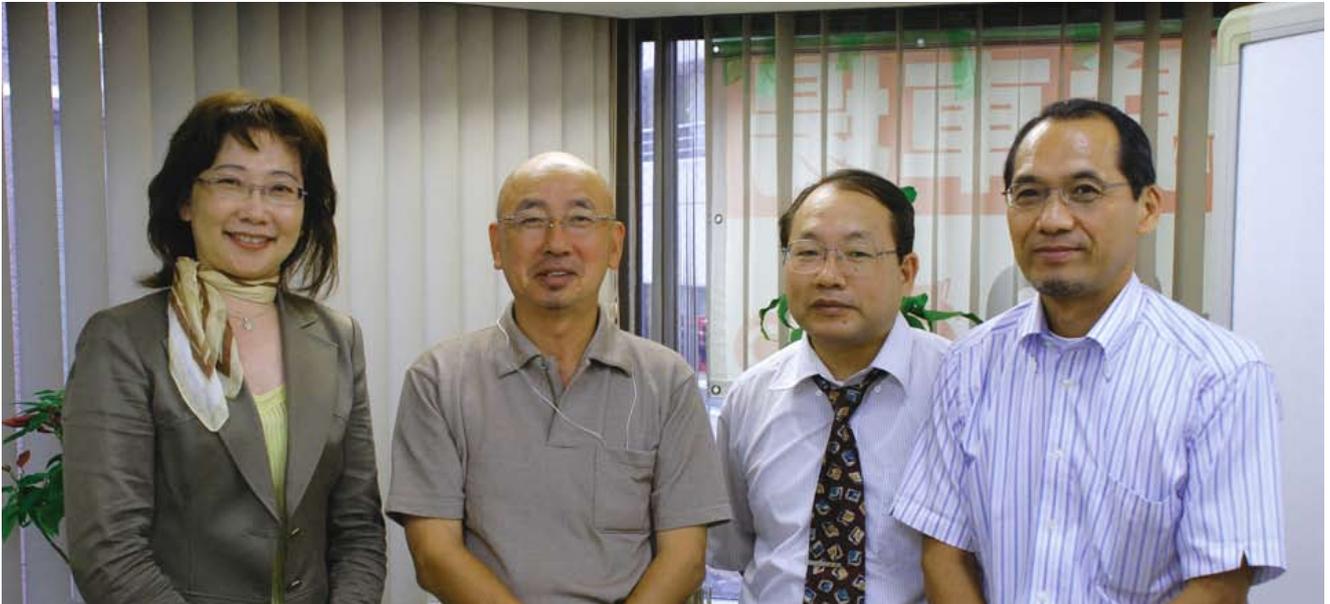
向 当校は日中両国に関連企業グループを有しており、これまでの日本語学校では不可能であったことを可能にしました。例えば――。

葉 その第1は、日中での一貫教育体制です。従来は学生を日本に送り出す中国の機関と、受け入れる日本の学校はまったくの別組織で、両者の意思疎通もありませんでした。そのため、学生は情報不足のまま来日し、勉強よりもアルバイトに追われ、希望する大学・大学院に入れないというケースが数多く見受けられました。

当校の場合、北京の精華大学内に事務所を設置するなどして、優秀な学生を募集します。入学審査後、中国の姉妹校「上海平成商務培训中心」などで、6か月にわたり基礎日本語教育を行い、全員の日本語2級合格をめざします。そしてその間に、日本の文化や風俗習慣を学んでもらい、同時に日本の大学・大学院の情報を提供し進路相談を行います。さらに卒業時と来日時にも厳正な学力審査を行います。ですから、来日できるのは優秀な学生のみで、自ずと日本の大学・大学院への進学率も高くなります。

東京アジア学友会は企業人の育成も行っているそうですね。

葉 それが当校の第2の特徴です。当校では中国の優秀な人材が日本企業に就職できるよう、日本語や日本のビジネスマナーが習得できる教育システムを確立しています。日本では少子化が進み、大企業でさえも優秀な大学・大学院卒の人材確保が難しくなっています。一方、中国では大学・大学院の定員増により、卒業後の就職難が深刻化しています。



そうした状況にありながら、中国の大学には日本企業へ就職を斡旋するノウハウがなく、日本の企業にも中国の人材を受け入れるノウハウがありませんでした。

当校の場合、グループ企業に人材派遣業の「クリエイト総研」があり、そのルートを通じて就職支援の体制が整っています。しかも当校では、外国人が日本企業に就職した場合に起きるさまざまなケースを想定して、カリキュラムを構成しています。ですから、ミスマッチが起きる可能性は限りなく低いのです。

学生や実習生用のゲストハウスも 用意されているそうですね。

向 それが第3の特徴です。来日した学生や実習生にとって、最も頭の痛い問題が「宿舎」です。日本で部屋を借りるには、敷金・礼金・保証人などが必要であり、外国人に貸したがない大家さんも少なくありません。関連会社の「クリエイト西武」は東京周辺に数多くの外国人向け「ゲストハウス(宿舎)」を所有していますので、学生や実習生は安心して日本語の習得に打ち込むことができます。

優秀な人材確保のために、 中国ではどのような活動を行っているのですか？

葉 中国の学生はどちらかというと、アメリカやヨーロッパ

に目が向きがちです。しかし、地理的に近くまた漢字の文化をもつ日本の方が、社会に溶け込みやすいという利点があります。私たちは日本のトップ企業の経営者や国立大学の教授とともに、中国各地の大学を回り、日本への留学・就職、さらには受け入れ態勢に関する講演会や説明会を行っています。すでに上海対外貿易大学、武漢大学など10校を回り、今後約100校での講演会を予定しています。

学生への支援体制や今後の計画を教えてください。

向 葉校長がご紹介したように、当校の場合、中国において6か月間の教育と、日本語2級資格の取得、大学・大学院への進学相談や志望校への願書提出、実習生の場合は就労ビザの手続き、日本における宿舎手配などを行います。そして来日後は、東京アジア学会で6か月間学習の総仕上げを行います。この間に、校外学習として日本の家庭へのホームステイや、お祭りなどの行事に参加するなど、日本の生活に慣れてもらいます。また、優秀な学生向けには「学内学習奨励費」を支給し、経済的な支援も行っています。こうしたきめ細かな支援を行っているのは、当校だけではないかと自負しています。

葉 私たちは学生や実習生に対し可能な限り支援を行い、大学や大学院・企業へと送り出しています。これからも優秀な人材を育成して、日中の交流に役立ちたいと願っています。